

グローバル・カフェ「留学報告イベント(オーストラリア編)」を開催しました

2023年12月21日(火)18時から、「留学報告イベント(オーストラリア編)」を開催しました。西オーストラリア大学(The University of Western Australia(以下 UWA)付属の語学学校である Center for English Language Teaching(以下 CELT)で5週間の語学研修を終えた谷口 凜菜さん、豊田 優唯さん、三谷 祐人が CELT での授業の様子や、現地での生活について紹介しました。当日は 日本人学生3人、留学生3人、教職員3名の計9名が参加しました。



谷口さんは CELT での授業について、授業時間は8時半~10時半と10時45分~12時45分の2コマ、自分のクラスでは8割が日本人だった、教室内では英語以外の言語を話してはいけないというルールがあった、主に発音練習を重視したグループワークを行った、と述べられました。現地滞在中は、5週間のうち3度ホストファミリーが変更になるというトラブルもあったが、現地コーディネーターとホストファミリー変更の交渉等を自分で行って対処できたという経験が自信に繋がったとし、自分の意思をはっきり伝えることが大切であると実感されたそうです。

三谷さんはクラスについて、事前に受検したオンラインテストの結果でクラス分けがされた、中学校レベルの文法と発音の矯正が主たる授業内容であった、文法はほぼ理解できたが、リスニング力が足りず、聞き取りが難しかった、と述べられました。三谷さんのホストファミリーは週末に教会に行って聖書を読み、聖書に関する動画を見るが多かったそうです。土曜日の夜は教会で食事が提供され、現地の人にとって日本人が教会に来ることが珍しかったため、現地の人からも声も掛けられたようです。最初は聖書の内容も会話にもついていけなかったが、現地の人の取り計らいで、日本語訳付の動画を再生してくれるなど、そのうち打ち解けることができ、最終的には教会に行くことが楽しみだったと話されました。



豊田さんのクラスでは15人中、14人が日本人だったこともあり、自ら英語を話す環境を作ろうと、自身のフットサルの経験を活かして、地元のフットサルチームに参加したそうです。週末は練習に参加、練習後はともにランチへと、練習以外にもメンバーと連絡を取り合うようになり、交流の場が広がったと話されました。また、ホストファミリーを決定する際に、年齢が近い方を要望したことで、姉のような存在の方と過ごすことができ楽しかったそうです。授業のクラスメートを替えることはできないが、ホストファミリーとの生活についてであれば、食事が口に合わない、門限の時間を覚えて欲しいなど、自分で要望を出していくことで、



自身の環境を変えることができるので、恥ずかしがらずにどんどん積極的に要望を出すことが留学生活を楽しく送る鍵だと述べられました。

最後に、インターナショナルオフィスの滝川教員より「留学を象徴するものをひとつ挙げてください」とあり、それに対して谷口さんは「オーストラリア産のUGGブーツ。仲の良かったホストマザーとお揃いのものにした。これを見るたびに留学を思い出す。」三谷さんは「教会に行った時にもらったノート。週末に日記を書けと手渡された。慣れない英語で書いているうちに、自分がどういう風に思っているかが分かるようになった、いろいろな想いが詰まった特別なノートになった。」豊田さんは「フットサルの練習中に撮った写真。チームに参加するために勇気を出したこと。参加したからこそあった出会いを大切にしたい。」と語ってくれました。

次回のイベントは12月22日(金)18:00～「年末交流イベント(夕方の部)」です。10月に実施した「ハロウィンイベント」でも共催した香川大学異文化交流会(Inter-Cultural Exchange Society (ICES))と実施します。

